

# 子どもたちが変わる？

## 10分間の朝



『朝読書』は、児童、生徒が登校して授業が始まる前の10分間、自分が読みたい本を自由に読む読書活動です。21年前に千葉県の高校で始まったもので、その後、全国の小、中、高校に拡大していきました。今では、朝読書を実施する学校は、全国で2万5,000校になっています。

松前町の全ての小中学校でも朝読書は実施されています。その効果はどのようなでしょう。

### INTERVIEW 3

## 岡田小学校

岡田小学校では、毎日8時10分からの10分間、朝読書を実施しています。読書開始の時間になると、校内は静まり、児童は読書に集中します。

図書館主任の戒能先生は、「児童は自然と席に着いて、静かに読書を始められています。教員も児童と一緒に朝読書をするようにしています。教員が読み聞かせをしている学級もあります。」

また、『ひみつのおはなし会』として、校長先生や専科の先生にお薦めの本を紹介してもらったり、子どもたちがいろいろな種類の本に出会う機会をもてるように工夫しています。朝読書は、本を読むことに興味をもつきっかけになるほか、学校生活をスタートさせる区切りとして大いに役立っています。子どもたちに集中力がついてきているなど実感しています」と朝読書について話してくれました。

坂本校長は、「読書離れは、大人も子どもも危機的な状

況です。小さいときに家の人が読み聞かせをしたり、大人が本を読むことに興味をもち、その姿を子どもたちに見せたりすることも大切だと思います。

人生で自分が体験できることは限られています。でも、本を読むことで今まで知らなかったことを発見できたり、普通なら体験できないすばらしい世界に出会えたりします。本を読めば読むほど、視野は広くなります。心に潤いを与え、心を豊かにするために、ぜひ本を読んでほしいと思います」と、読書の大切さを話してくれました。



坂本義武 校長

## 読書ボランティア

町内の小学校では、より読書に親んでもらうため、朝読書のほかにもボランティアのおはなし会を開催しています。ボランティアのメンバーは、児童の保護者やOB、地域のボランティアグループなどで、大型絵本やパネルシアターなど、子どもたちの発達段階に応じた読み聞かせをしています。

